

# 西日本インカレ（合同研究会）2015 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

## 大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）

フリガナ) シガダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) チンゼミナール
滋賀大学	経済学部	陳ゼミナール

※申込書に記入したチーム名から変更する場合は、新旧両方の名称を記入してください。

※企画シート提出後のチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ)	フリガナ) イグチ トモキ	
遠藤組	井口 智貴	15人

## 研究テーマ（発表タイトル）

これからの農業を考える～中規模流通というビジネスモデル～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

昨今、世界無形文化遺産に和食が認定され需要も増大することが予想される。しかし、T P Pや農協が国内農作物を脅かす存在となっており、国内農家は衰退の危機に瀕している。我々は農家の経営的視点が欠落している現状に注目し、国内農業の衰退を回避することを目的とした。その為に、農家へ経営的視点に立脚した一つのビジネスの方向性を提案し、収益性を高めることで、日本農業衰退を回避することをアクションと定めた。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

農林水産省が発表しているデータを見ると、農業従事者数は減少の一途であり、すなわち供給の縮小が生じている。加えて、日本のT P Pへの参加や農協の存在が今の日本の農業の収益構造に暗い影を落としている。トマトを例にとると、農協を介した流通は広く農家からトマトを集積し、各種農家から集めたトマトを同じ容器に梱包したうえで発送される。そのため、個々の農作物の特徴を消滅させ、農協の買い取り価格の画一化を招いている。T P Pもまた海外の安い農作物の流入を助長するため、小売店などに並ぶ農協を介した農作物との競争が予想され、農協への出荷を行う農家への影響も考えられる。

我々が農業の現状に興味を抱き、いくつか農家に取材を行ったところ農家は意外にも収益を上げていることがわかった。収益を上げている農家に共通する特徴を分析した結果、農協を介していない流通形態という点で一致した。調べてみると、流通形態の主流として小規模流通と大規模流通が確認された。小規模流通はネット販売や直売所など小規模の市場をターゲットとしているがネット販売では収益性、直売上では販売量を増やすことの難が生じている。大規模流通では農協を介した販売や大きなロット取引といった大規模な市場をターゲットとするものの、農協では上記のように農家のこだわりが反映されにくいという点に、求められる出荷量のハードルの高さが課題となる。我々が取材した農家は両者の流通形態に該当せず、農協を介さない取引の結果として収益を上げていることがわかり、これら農家の流通形態のモデル化に試みた次第である。

### 3. 研究テーマの課題

農家に経営的視点に立脚した一つのビジネスの方向性を提案することで日本農業の衰退を防ぐ。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

我々が完成させた経営的な手法は中規模流通である。中規模流通とは、農家が農協に頼らずに自らで販路を開拓するという流通形態を指す。その特徴は農協を用いないことで、農家の農作物の個性を前面に押し出し、なおかつ農作物の一律価格化

も免れるため適切な価格での販売を可能とすることである。消費者にとっても農作物の出どころを容易に知ることができ安心感を生むことにつながるのである。中規模流通の仕組みは、通常ならば農協が介在する流通の過程を省けるとともに、小売店等に直接販売交渉を行うことでその商品の良さを実感してもらうことができ、適切な価格水準、顔の見える農家といった差異を得ることができるといったものである。

## 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

実際の農業の現実を知るため、県内の農家や農協を訪問してのインタビュー調査。中規模流通を駆使して農業を始める際に必要でありそうな商品企画書などの作成。収支計画表の作成。

## 6. 結果や今後の取り組み

今後としてはこのビジネスプランは初期段階のみを提示しているので、ビジネスを継続していくためのプランを作成すること。

## 7. 参考文献

滋賀県 HP

<http://www.pref.shiga.lg.jp/>

青年就農給付金について

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/agri/senryakusitu/files/files/26-1-tirashi.pdf#search='%E6%BB%8B%E8%B3%80+%E9%9D%92%E5%B9%B4%E5%B0%B1%E8%BE%B2%E7%B5%A6%E4%BB%98%E9%87%91'>

品目別経営指標

[http://inz.jpn.org/nougyou-1/nougyou-1-1/pdf/hinsyu\\_keiei.pdf](http://inz.jpn.org/nougyou-1/nougyou-1-1/pdf/hinsyu_keiei.pdf)

農林水産長期金融協会 HP

<http://www.nokinkyo.or.jp/keiei/index.html>

ヤマト運輸 HP

<http://www.kuronekoyamato.co.jp/top.htm>

農林水産省

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/sihyo/data/12.html>

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/sihyo/data/08.html>

日本農業新聞【TPP 特集号】2011年6月

日本農業新聞 2015年10月6日号

日本農業新聞 2011年1月13日号

東京新聞 2015年10月6日号

JA が変われば日本の農業は強くなる 杉浦宣彦 鷗来堂 2015年9月

JA 解体 1000 万組合員の命運 飯田康道 積信堂 2015年10月

これからの農業ビジネス 藤野直人 同文館出版 2011年10月

## 西日本インカレ事務局への連絡事項

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までを渡します。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「西日本インカレ事務局への連絡事項」に記入してください。なお、本企画シート提出後のチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。